



## 北國の冬の保育

高田高田  
保育園長

根 岸 草 笛

「これがまあついの住家か雪五尺」という一茶の句がござい  
ますが、雪國では十一月には入りますと早々に、遠山が雪を  
被つぎ、田の面には薄氷が張り、ときどき霰が音を立て、雲  
行があわたしくなります。

そして、十一月なかばに初雪が降り、十二月はじめには、  
山も村も街も雪に埋れて、その雪がそのまゝ根雪になります  
と、所に依つては二丈と三丈と積つた雪が三月末頃まで溶け  
ぬ事があります。

その上、うす墨色の雲が低くおしかぶさつて、明けても暮  
れても雪が音もなく降り積り、風は身を切る様に冷たく、人  
々は雪おろしのために、新春からお雑煮もそこ〜くに、吹き  
曝しの屋根に登る事が珍らしくありません。それで、吹雪の  
朝など、頬つべたや手足を眞赤にして、白い息を吐き乍ら雀  
の様に背を丸めて、馳け込んで来る幼い者達の姿をこよなく  
いぢらしいものに想えるのでございますが、来る日も〜も  
お外が荒れます關係から、雪國では當然屋内の保育が多くな  
り、太陽の恵に缺けますので、悲しくも例年クル病や小兒結

核の子供達が少なからず発見されるのでございます。

そこで、冬の保育の問題の焦點は、如何にして、その光線  
不足運動不足の環境を整備して、冷たい風雪から、幼い者達  
の心身の健康を護るかという點にあるのでございますが、そ  
のために既に晩秋の頃から、こま〜とした数々の心遣いが  
惜しみなく捧げられるのでございます。

第一に、明るく暖い園にするために、高い所に窓を明け、  
ガラスや煤を清拭し、汚れた箇所は白い紙を貼り、戸障子に  
は隙き間風を防ぐための目張をし、園の外側えは葎や萱や竹  
の類を用いて頑丈を雪圍いを致します。

又、ストーブの薪やぼえ(粗朶)を澤山買い入れ、炬やお  
炬燵やお火鉢の灰も、藁を燃やして新しくとり替えます。

更に屋内を少しでも廣くするために、不用の器具を片づけ  
お部屋をしきりをはづしたり致します反面に、力がありあま  
つて亂暴をしたくなる様な子供達の虫封じに、繩梯子や登り  
綱をさげ、土嚢や砂嚢の様にもち運びの出来る重い〜もの  
を用意し屋内砂場もつくります。

それから、冬の間は自然が白一色に塗りつぶされて、金魚まで瓶の中で冬眠して仕舞いますので、觀察の領域が非常に狭くなりますから、お部屋の中え小さな花壇をつくつて、比較的寒さに強い南天、やぶこそうじ、まんりやうの様な赤い實や福壽草、茶種などを植えます。

その外にアマリ、スヤヒヤシンスの水栽培をしたり、梅の枝をストーブの側においてその早咲きを愉しんだり致しますがこうしたお事は畠のお大根やお芋や人蔘の收穫とおなじに「冬ごもりのお仕度をしませう」という嬉しい保育の主題として相當期間子供達の興味を纏ぎとめる事が出来るのでございます。それから、霰や雪溶けの水で濡れて来る子供達のために乾燥室の用意をし、又寒くなりますと頻繁になりがちなおしつこが、年少組の子供でも樂に出来ます様に、モンペやズボンはなるべくゴムテープやボタンにする様にお母さん達を指導します。

防寒具は大體普通のオーバーやマントに頭布を被つて來ますが、農家の子供達はゴザボウシと申しまして、すげやいぐさで編んだものを被つて參ります。このゴザボウシは雪もあまりつかず、殊に雨ガツパの様に兩耳がピツタリふさがれませんので交通事故が防がれますので、農村ではもつと推奨されてよいと思つております。

穿きものは少々冷たくともゴム長靴が一番便利なのですが手には入らぬ子供は雪下駄や藁靴を穿いて來ます。藁靴というのは藁で編んだ靴で型も長短つゝかけ幾種類もあります。

非常に暖いものですし、多くはその家庭の人の手づくりです。ので永持ちはしません。が、その子の足にピツタリあつた靴に子供らしい赤い花模様や茶じまの切れ地でそのふちを飾つたりしたものははいているのを見ますと、如何にもつくつた人達の素朴な愛情が溢れていて心の暖るやうな思いが致します。

次に暖いという事に關連して、子供達を身體を中から暖めてやれる給食でございますが、野菜の中でも比較的ビタミンAが不足しますので、色つき野菜の貯藏に苦心致します。又暖ると申しますとカロリーの多い濡いためやお汁が多くなりますが、スチウ、さつま汁、けんちん汁と申します典型的なお献立の外に、鯉こく、すけとう鱈の粕汁、わかさぎのつくね汁というやうなお國自慢から、さては支那風のチンタンワソツやチャブスイに至るまで、色々と工夫して子供達を暖けてやりますが、その外に名の付け様もなき儘に我が同志の間で國際料理と呼ぶ諸菜養素の完備した暖い迷料理の幾種類かがある事もついでに御紹介申し上げておきましょう。

それから、遊びの主題にも必然的に、雪にちなんだものが多く表れて參ります。

しみ渡り、スキー大會、雪のカーニバル、お日待ちエトセトラ……で一寸暖い國の方々には想像もおつきにならぬものがあります。

しみ渡りというのは、夜分特に寒さの厳しかった朝、路も野原も沼もいつせいに凍つて仕舞いますと、不通過れない所が何處でも自由自在に通れるやうになりますので、好き勝

手な所えビクニツクに行くのでございます。

雪のカーニバルというのは、大體むかしの紀元節の頃に街の人達が雪のアーチや、建物や、船、それから有名人の像や藝術家の當り藝などをつくつてコンクールをする街のお祭りです。そんな時には子供も子供なりに情熱を傾けて、そのお祭りに参加するのでございますが、そのスケールの偉大さはどうてい粘上細工やお砂場遊びの比ではございません。しかし、こうした主題はお天氣が悪いと中止しなくてははいけませんので、總體的には紙芝居や人形劇やごつこ遊びが盛んになります。又靜かに愉しむという點から、金澤の松田先生の所では白晝でもよく見える幻燈を工夫され、スリガラスにパラインで子供達に繪を描せそれをその儘見せて欣ばせていらつしやいますが、ガラス繪は平においたガラスに水筆で繪を描いておきますと翌朝綺麗にそこだけが凍つて白く結晶になつておりますので、子供達が大変好みます。水繪書きとまで行かなくとも只息をハアと吹きかけて曇つた所を指先でいたすら描きするだけでも、子供は大變々々欣びます事を皆様も御存じでしょう。

それから、製作なども三學期の子供達は發達的にもそうなるのだと思いますが、お外え氣が散らない故でしようか、製作にも打ち込んで参りますので、出来るだけ紙製作その他の材料を豊富に備えます。それに夏の間に貯えておきました、銀杏やどんぐりのおはじき、獨樂、ヤジロ兵衛、ぢしやの寶のお手玉と申します類の自然物利用のお玩具つくりをもしば

／＼くりかえし、好きな時に何時でも誰でも何でもつくれる様に氣を配つておきます。

しかし、子供達は私達大人が考えますほどに寒さに對して、いぢけてばかりおりません。お天氣さえ良ければ、或いは少々粉雪ぐらい散らついても、仔犬の様にお外え飛び出して、箱櫓を引いたり、スキーに乗つたり、雪投げをしたり、あきる事を知りません。

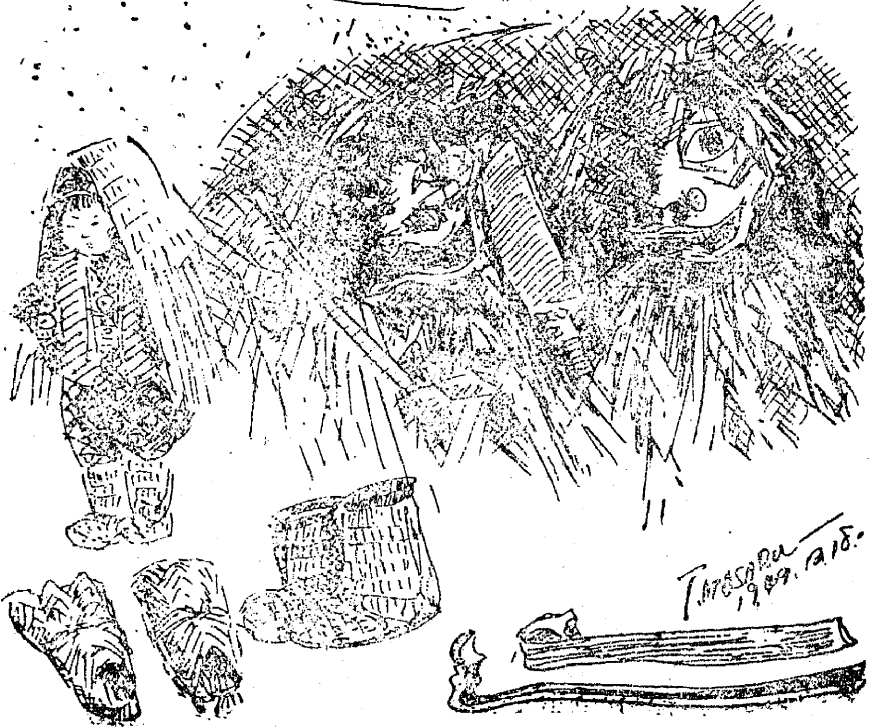
殊に戸外における自由遊びの時間には、私達が遠い先祖から受けついで、私達もやはり幼い頃に姉や兄達と一緒にしてきた地方色豊かな郷土的な懐しいお遊びが澤山出て参りますのでそれを少し申し上げて見ませう。

### 迷い藏

新しい雪が積つて暗れた朝などに好んでするお遊びですが糞靴で雪を踏んで、八幡しらすの様に幾條も／＼交錯した細い迷路をつけます。それから普通のカケツコの様に一ヶ所から一齊に飛び出して近道を選び、一番先きに目的地に着いたものが勝ちになるのですが、新雪は踏む度に丁度買ひ立ての皮靴の様に、キユウ／＼という輕快な音がするものですから幼い者達は雪を踏む輕い抵抗とその音に惹かれて、その事だけでも十分に愉しくて、何時までもやめられないで路つづけています。

### うちごちや（お家ごつこ）

これも迷藏の様に雪の軟かい時にしたがるお遊びですが、迷藏と異なる所は、メチャ／＼な路ではなくて、跡がキチリと壁



やお廊下として表われる様にして、實物大のお家を踏みつけて行くのです。お玄關が一坪なら一坪、お座敷が八疊なら八疊、四坪という風に自分の理想の住宅を雪の上に設計して踏みつけ、床の間には椿や杉枝を持つて来て飾り、臺所えは籠を据え厩には親仔の馬を二匹おいたりするのですが、立體的に表現出来ないフロントリテイの法則で、その所だけを平気で平面的に表現しておりますので、吹き出したくなる時があります。それが出来上りますと筵やさんばいす等を持ち出してお飯事が始まりますが、お飯事より家づくりの興味の方が先行的で且つ重んじられています。

#### お日待（カマクラ）

やはりお飯事を主にしたお遊びですが、これは小正月を中心に雪室の中で行うお飯事です。最も盛んなのは秋田縣の横手町附近のカマクラですが、お正月の十二三日頃から井戸の傍や路傍の雪をシヤベルや、コスキ（木で出来た雪掻き用のシヤベル）で、高さ六七尺、巾一間ぐらいの籠型の雪室をつくり、正面に方型の祭壇を設けます。

そしていよいよ十五日の夜になると子供達はその中に筵を敷いて座り、祭壇に水神様を祭り、ロソクを灯してお供物を供え、餅を焼き、甘酒を掬み、禮拜者の来るのを待ち「水神様に寄進してタンセ（下さい）」と通行人に呼びかけるのですが、越後のお日待ではあまり祭壇をつくりませんし、小正月とは限らず少しも風が良いと幾度でも雪室をつくりな

しかし暖い日には雪が溶けて座っていると筵が下から濡れて來ますので、母親から命令された大切なお子守り中の赤やんを洗濯盆の中などえ寢せておつているのはほんましくなる風景です。それで園の子供達もやはりこのお日待遊びが大好きですが、大きい子供達の様に、又カマクラの様に本式のお鍋や七輪を持ち込んでの煮炊きは致しません。お盆の上に、梅酢やうこんこ（榛の木の實）で赤や黄色に染めた、雪や氷柱のお菓子やゼリーを並べ餘念もなく遊び暮しております。

又、雪を色々な色に染めて遊ぶ染物屋さん、それだけ切り離しても十分に子供達の心を奪う力があります。

#### ドンドヤキ（さいの神）

小正月の十五日の行事にもう一つ子供の大變欣ぶものがあります。子供達が不用になつた門松、しめ縄、おかさりなどと一緒に自分の書き初めを集めて焼くのですが、只それだけでなしに、藁を澤山寄せ集め勇しい音をさせるために青竹を交ぜ、田畝の真中に四本の柱を立て、そこで火をつけますが藁がどん／＼燃えて眞赤になり、青竹がパン／＼とはねて何とも云えない気分になります。

その時に、書き初めの火の子が高く天を登るほど、その子のお習字の手が擧る（上手になる）と信じられております。又、その火で焼いたお餅は無病息災のおまじないになるというので、おかさみや切り餅を焼いております。

もつともこうした事は農村の方に盛んで、都市では現在ほ

とんどすたれておりますので、直接この遊びを園ではいたしません、それを他所で見て来た翌日は、ごっこ遊びやお繪描きやお話にも随所にその印象が表われ、しばらく昂奮が尾を引いて残ります。

### 哭く子はいないか(年貢の兎、ナマ、ハゲ)

東北の地方にある習慣の一つに舊暦正月十五日の夜、青鬼赤鬼の面を被つた若者が二人、藁またはウミスゲ(海藻の一種)で作つた蓑と腰簾様のケンダイを着て、藁のハッキとクツを履き、銀紙を貼つた山刀あるいは鉞や大庖丁を持つて、家々に表われ、哭く子、あくたれ子、怠けがちの嫁聲をさかして體罰を加える風習がありますが、越後の地方では、九つになつた悪い子に、年貢の兎という兎が表われ、大きい袋の中に入れて哭く子を遠くの山へ連れて行くといふ言い傳えが幼い者達に信じられています。

この二が交錯した様なものが、「哭く子はいないか」と呼ぶお遊びになつていきます。別に大した仕度はありませんが、一寸そこらにある風呂敷やお面を被つた鬼又は兎に見付からぬ様に(隠れん坊と同じ型で)園の隅々にかくれ、息をこらして面白がつています。これも不思議に夏の戸外ではせず、小正月のその頃になつてからはじまります。

### カチコ

その外に普通に子供達がしておりますお遊びにカチコというのがあります。

最初に一握りの雪を手でしつかり握りしめて球の中核にし

それを柱におしつけたり、下駄で踏みつけたりして、囲め乍ら段々大きくして丁度砲丸投げぐらいの雪の球をつくります。そして一人の子供の雪の球を地面におき、別の一人の子供がそれに自分の雪の球を投げつけて、壊れた方が負けになるので、その音からカチコという名が生れたらしうございませす。單純な遊びですがながく興味が続いたします。

### スキー、スケート、とその代用品

スケートの代用品として竹下駄をつくつて穿いています。猛宗竹を真二つにバンと割り、それを自分の足のサイズに合わせて切り、角を丸める、焼火箸をブスリとさすと黒い煙が出てすぐに穴があきます。それに藁や竹の皮の緒をすけて穿くのですが、寒さに路が氷つて居りますと、スワイ〜と氣持のよい音を立て、速く〜走ります。

東北地方のタケツコというのは、やはり竹を二つに割つたものゝ先きを(スキーの實物大に)火で焙つて曲げてあります。

その外に下駄に細い鐵を一枚又は二枚打ちつけた下ガツパというのがあります。

こんな事を申し上げていれば數限りなくございませす、最後にこんな戸外の遊びにも倦いて一步園内には入れば、風雪は如何に厳しくとも、ストーブの火がトロ〜と燃え、お給食が湯氣を立て、待つて居りますので、冬の保育も又愉しからずやと申し上げておきます。